



東京六稜会 第53回総会のご報告
造力由美、原田雅己(91期)



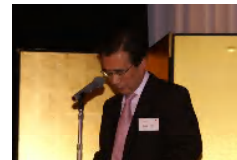
東京六稜会
志甫溥会長



六稜同窓会
名誉会長
八尾隆校長



六稜同窓会
山本雅弘会長



東京六稜会
黒岩暎一事務局長

東京六稜会第53回総会が6月19日(土)に東京・神保町の学士会館で開催されました。梅雨入り宣言がなされたばかりでしたが、幸い雨はあがり、220名もの同窓生が一堂に会しました。

【第一部 総会】

総会は、定刻の13:00から岩下智昭さん(91期)の司会で始まりました。最初に志甫溥・東京六稜会会長(60期)から、今年度は、最年長(49期)から最年少(122期)まで73歳差の三世代に亘る北野同窓生が、世代を超えて相互理解を深めることができる総会になってほしいとのご挨拶がありました。ご来賓の八尾隆・北野高校校長からは、来年度から普通科に加えて文理学科が併設されることのご報告と、教師は生徒に対してある時は強い振動を和らげ、またある時は弱い振動を増幅させ励ます「バネ」のような存在でありたいというお話を、山本雅弘・六稜同窓会会長(71期)からは委員会拡充の必要性についてお話をいただきました。最後に、黒岩暎一・東京六稜会事務局長(75期)から、今年度の役員体制、会計等についてのお話があり、常任幹事増員(21名→36名)の報告がなされました。その後、志甫会長再任の提案があり、一同の拍手をもって承認がなされました。



総合司会の
岩下さん

【第二部 講演】

総会に続いて、小澤一雅君(91期)による講演が行われました。小澤君は高校時代サッカー一部に所属し、卒業後は東京大学工学部に進学、土木工学科コンクリート研究室で研究を始め、現在は同大学工学系研究科教授を務めています。「変貌する社会基盤整備と大学における人材育成 ～インフラチームジャパンを世界へ～」の演題で、時代とともに社会基盤整備が移り変わる中、大学の研究と教育がどのように変遷してきたかについて講演をしてくださいました。



小澤一雅教授による講演「変貌する社会基盤整備と大学における人材育成」

小澤君は熟練技術者による「締め固め作業」を行う必要のない画期的な「自己充填コンクリート」の開発に成功しますが、どんなに技術的に良いものを開発しても、国内でなかなか普及しないという課題に突き当たります。新技術の活用のために公共事業に関わるマネジメントや明治時代から続く法令・諸制度の研究に転換しますが、最終的に最も重要なのは人材育成だと考え、若手の育成に力を入れることとなります。現在、小澤君の研究室では「ケースメソッド」という疑似体験を取り入れた教育を行い、国際的に通用する人材の育成に力を注いでいます。講演の最後はサッカー部出身の小澤君らしく、南アフリカで開催中のW杯サムライジャパンのゴールシーンと以下のメッセージで締めくくりました。「がんばれ日本、誇りと自信を持って、新たな挑戦を！」



【第三部 懇親会】

懇親会の司会は宇津木紀子さん(91期)です。独特の間合いと額に六稜の星をつける準備運動で参加者全員をひきつけたあと、ご来賓の八尾校長、山本会長、黒田真樹・北野高校教諭(94期)、富田昌宏・常任理事(78期)、木村市三・事務局長(73期)、久保田静・事務局(73期)のご紹介がありました。続いて「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショー！」の掛け声で、「こも樽“六稜”」の鏡開きが行われ、最年長の中村典美さん(49期)から力強い乾杯のご発声を頂きました。

懇親会司会の宇津木さん

大阪から駆けつけてくれた8名を含む今年の幹事当番(91期)46名は「全員でおもてなし」を合言葉に、ご年配の先輩方には食事・飲み物を運び、若い世代や同期の人数が少ないテーブルには、中に



こも樽“六稜”の鏡開き



中村典美さんによる乾杯

加わって一緒にお話をするよう心がけました。また気がつかれた方も多いと思いますが、お料理の下には「東京六稜会」の文字と「六稜の星」が大きくデザインされていました。これは学会館の担当者の方がサプライズ・サービスとして用意してくれたものです。この粋な計らいも日頃の六稜会事務局の方々が培ってこられた会館との信頼関係があったからこそと思います。

新入会員の末澤貴大さん(122期)、若松佑輝さん(122期)の紹介のあとは、篠田真美さん(91期)と岡本元君(91期)の司会進行による「若手アワー」です。幅広い世代が集まる懇親会



料理皿にも“六稜の星”



腕章をつけた幹事当番

会で若い世代からも発信してもらう機会を作りたいという事務局の希望で、今回初めて試みた企画です。102期から120期までの若手に登壇していただき、興味を持っている分野について話をしてもらいました。先輩方からはこれに呼応する形で 経験談や励ましのお言葉をいただき 若手と先輩とのコミュニケーションを実現することができました。

熱気溢れる若手アワーのあとは、アメリカから帰国したシンガーソングライター 吉田昌代さん(91期)のピアノ弾き語り

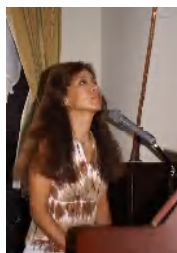


若手アワーで登壇した皆さん 若手パワーに注目する先輩方



です。自作曲“OSAKA”の「それでも大阪、やっぱり大阪、大好き大阪・・・」のフレーズは六稜同窓生の琴線に触れるものになりました。先輩方からのリクエストも出て、和やかなムードが広がる中、「翼をください」の合唱で盛り上がりは最高潮に達します。

懇親会も終盤を迎え、今年度の幹事代表・三浦泰夫君から来年度の幹事代表・羽田野達夫さん(92期)に襷が引き継がれました。



3 吉田さんの弾き語り



襷を引き継ぐ幹事代表

恒例の校歌斉唱では竹村二郎さん(73 期)佐々木功(91 期)応援団長がエールを切り、吉田さんのピアノ伴奏の中、出席者全員が世代を超えて、隣の人と肩を組んで北野高校校歌を斉唱し、会場が一体感に包まれたところで、懇親会はお開きとなりました。



エールを切る佐々木君



全員が一体となった校歌斉唱

来年の総会は 6 月 3 日（金）夕刻に、学士会館で開催される予定です。今年度は、小澤君の講演内容を始め、若手にスポットを当てた企画に挑戦した総会でしたが、皆様のご協力で無事に終了することができました。東京六稜会、そして当日一緒に会を盛り上げてくださいました参加者の皆様お一人おひとりに、心から感謝を申し上げます。

（以上）

（写真担当：米浪誠・福本則浩）